

「天と地の創造」

2020年09月24日

神は言われた。「水の中に大空があり、水と水を分けるようになれ。」神は大空を造り、その大空と下の水と、大空の上の水とを分けられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた（創世記1章6節～8節a）

神は渴いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神は見て良しとされた。（創世記1章10節）

第二の日、神は「水の中に大空があり、水と水を分けるようになれ」と言われ、大空を創造された。ここでも、充滿した水が既にあり、そこを上下に押し広げ、上の水と下の水とに分けて、大空が創造されたと言う。この記述は、当時の宇宙観を反映している。水に覆われていた所を上下に分けて、半球の形をした大空を造られた。東京ドームのような形である。そのドームの内側を太陽や月や星などの天体が東から西へと運行している。ドームの上は水なので、時々開いて、雨や雪や霧が降ってくる。下も水であるから、海中を浮遊する「クラゲ」のような形をした宇宙と言えよう。神は創造した大空を「天」と呼ばれた。「天」という言葉は特別な意味がある。「天」は、旧約聖書で412回、新約聖書で213回、圧倒的に多く記されている。この「天」は大空の向こうという意味ではなく、神が臨在し、神の思いが支配している世界である。主イエスは、「こう祈りなさい」と言われ「主の祈り」を教えてくださいました。その最初の呼びかけは「天におられる私たちの父よ（マタイ6:9）」である。父である神は天におられる。そして、「御心が行われますように／天におけるように地の上にも（マタイ6:10b）」と、神の御心は天において実現していると語っている。「天」は人間が到達することができない超越した神の世界である。そして、人間は「天」を信じ、そこに臨在される神を仰いで、自分とこの世のあり方を正されて行く。人間は有限な存在であるから、永遠を憧れた。「天」は永遠で、創造主なる全能の神がおられる。「天」は人間の全き願望である。

第三の日、神は「天の下の水は一か所に集まり、渴いた所が現れよ」と言われた。そのようになった。渴いた所を「地」と言い、「地」に押しやられた水の集まった所を「海」と呼んだ。「地」と「海」が創造されたのである。「地」は人間の住む大地である。「天と地」の関りが聖書の根本的なテーマである。「地に」ある人間は「天」とどのように向き合ってきたか。「天」の神を信じるということは、私は「地」にある人間であるという告白である。ヘブライ書の著者は、旧約聖書の信仰の偉人たちは、「地」上ではよそ者、滞在者であると告白しながら、自分の生まれ故郷に勝る「天」の故郷を憧れていたと、彼らの信仰を称賛している。しかし、旧約聖書においては、天と地が結び合うことはなかった。主イエスが降誕された時、羊飼いたちに天使と天の軍勢が「いと高き所には栄光、神にあれ／地には平和、御心に適う人にあれ」との大賛美を歌った。主イエスの降誕によって、「天」が開き、「地」と結び合った。天と地を結ぶ主イエスの降誕が新約聖書の告げる福音の核心である。そして神が、「地は草木を生えさせよ。種をつける草と、種のある実を結ぶ果樹を、それぞれの種類に従って地上に生えさせよ」と言われると、地は草木、種をつける草と実を結ぶ果樹が創造された。これらの植物が地を潤し、人間の命を支える食べ物として用意された。神は「地」と「海」と地に生えた「植物」を見て、「良し」と祝福し、是認された。「夕べがあり、朝があった。」第三の日の創造である。